
ワールドカップ小説 2010

あこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワールドカップ小説 2010

【Nコード】

N3871M

【作者名】

あこ

【あらすじ】

ワールドカップに熱狂するコナンを描いています。筆者にサッカーの知識はありませんので、変なツツコミはしないでください。

この話は、日本代表の試合を焦点としていますので、ベスト16となった試合の後は、適当な後日談で終了となります。

1. カメルーン編

蘭「コナンくん、早く寝なさい」

リビングに蘭の声が響く。

コナン「ごめん、蘭姉ちゃん。この試合だけ見せて！そしたら寝るから……」

蘭「今、何時だと思ってるの？明日、朝に結果教えてあげるから、ね」

コナン「ワールドカップだよ！日本の試合見たいよ！」

普段なら、「分かった」とでも言いそうなコナンだが、今回ばかりは訳が違う。

世界中のサッカー選手が国の威信を懸けて戦うこの一戦、それも自国の試合となると、例えば小学生であっても見たいものだ。

特に、コナン……いや、工藤新一にとって、ワールドカップの初戦は大きなものである。

小学1年生の頃からサッカーを始めた新一にとって、2002年の日韓共催ワールドカップの開催中は、毎日テレビに向かい、連日の熱戦に心を奪われた。

また、「夢の翼プロジェクト」という、優勝国を讃えるために、折鶴を表彰式で翔ばそうというイベントに帝丹小学校も参加し、FIFA公式の千代紙で一生懸命に鶴を折った。

いや、元来指先が器用でなかった新一は、鶴を折るより、千代紙自体に貴重性を感じ、こっそり自分の分を保管していた。

蘭「……分かったわ。でも、試合が終わったらちゃんと寝るのよ」
あまりにも熱心なコナンに根負けした蘭。本来ならあまり認めない夜更かしを許した。

コナン「やったああ！ありがとう！！蘭姉ちゃん♪」

普段はあまり見せない年相応の笑顔を見せ、早速観戦準備を始める。

喉が渴いてもいいようにジュースを用意し、トイレに行きたくならないように、用を足してくる。

そして迎えたキックオフの時間。

その時間には、夜更かしを咎めていた蘭や、麻雀から帰ってきた小五郎までテレビの前にスタンバイしていた。

ハラハラドキドキの試合展開の中、運命の瞬間を迎えた。

なんと、日本が強豪・カメルーンから先制ゴールを奪い取ったのだ！

その瞬間、コナンは近所迷惑も省みず、大きな声を上げて喜んだ。

その同時刻、日本全国のあらゆる場所で、そんな歓声が聞かれたという風の噂があるので、そんなに迷惑していなかったらしい。

本当にそうだったのかは、知らないが、前半を終了した時点で、1点リードしている日本に興奮冷めやらぬコナン。

コナン「よっしゃあ！このまま攻め続けて、点を守りければ日本の勝ちだぜ！」

蘭「コナンくん、ホントサッカー好きなんだね」

小五郎「まるで、どっかの探偵ボウズと一緒にだな」

小五郎のこのセリフに、「悪かったな……」と2人に聞き取れないくらいの声でぼやくコナン。

いくら小五郎でも、物心つく頃から娘と一緒にいた幼馴染みの趣味くらい知っている。

勿論コナン（新一）も、そんな頃から知っている小五郎の発言である。

「誰」という枕詞はなくとも、その人物が「誰」というくらい、見抜くことに造作もなかった。

それが自らのことであるので尚更である（笑）

そんな会話をしているうちに、絶対に点を取られてはならない、後

半の45分が始まった。

途中、カメルーンの猛攻にヒヤヒヤする場面が数多く見られた。

その度に3人は、息を飲み、声を上げ、要所要所で感嘆の声を上げた。

そして、試合終了を告げるホイッスルが南アフリカの地に鳴り響いた――。

結果は、1対0の日本の勝利だった！

コナン「やったあ♪」

蘭「勝ったわね」

小五郎「ま、いい勝負だったんじゃないか？」

照れ隠しからなのか、余りにも素っ気ない小五郎に顔を見合わせて笑うコナンと蘭。

コナン「おじさん、もっと喜んでもいいんじゃない？」

蘭「そうよ！日本が勝ったんだからもっと嬉しそうにしてよ！」

小五郎「バーロォ！カメルーンに勝ったからって、まだ決勝行けるって決まったわけじゃねえんだよ！喜ぶなら、次の試合に勝ってさらにしろってんだ！」

小五郎の的を得た発言に言葉を失うコナン。

そう、まだ決勝リーグに行けるとは決まっていなかったのだ。

そんなことも考えず、……いや、実際は分かっていたが、目前の勝利に心を奪われ、すっかり忘れてしまっていたコナンに、小五郎の発言は、かなり響いたらしい。

蘭「ちよっとお父さん！コナンくん、ショック受けてるじゃない！」

小五郎「俺、なんかマズイこと言ったか？」

……マズイと言うよりかは、「あの」小五郎に正論を突きつけられたことが響いているらしい。

コナン「大丈夫だよ、蘭姉ちゃん……」

そうは答えるものの、明らかにさっきまでの元気がなくなっている

コナン。

コナン「おじさんの言う通りだよ。でも、日本の勝利は喜ばなきゃ♪」

そう、明るく答えるコナンに、小五郎も「そうだな」と努めて明るく返した。

小五郎「と、いうわけで蘭！ビール持ってきてくれ！」

すっかり日本の勝利を祝う気になった小五郎は夜遅いというのにビールを要求する。

蘭「はいはい」

蘭も普段なら「自分で取って来れば？」という所を父親の要求に答えてビールを取りに冷蔵庫へ向かう。

小五郎にビールを出すと、欠伸が出た蘭。

蘭「試合も終わったし、寝よっか、コナンくん」

コナン「：：そだね」

監督や選手のインタビューも見なかったコナンだが、試合が終わったら寝るという約束をしていた為、仕方なく（笑）寝部屋に向かう。

遅くまで起きていたコナンと蘭はすっかり寝不足で朝を迎えた。

眠いからといって、学校を休むことは出来ない為、冷水で顔を洗うなど、出来る限り目を覚まさせて学校に向かった。

コナン「ふああああ」

大きな欠伸を繰り返すコナンにいつものメンバーが尋ねる。

光彦「珍しいですね、コナンくんが欠伸だなんて」

歩美「昨日眠れなかったの？」

元太「大丈夫かよ、コナン？」

銘々心配の声をかけてくれる。

哀「どうせ、昨夜のワールドカップを試合終了まで見てたんでしょ？」

コナン「ああ、そうだよ：：：」

歩美「いいなあ、コナンくん。日本が勝つ瞬間見られて」元太「オレなんか見ようと思ってたに、いつの間にか寝ちまってたぜ……」
光彦「僕なんか見たかったんですが、母さんにとめられてしまいましたよ」

コナン「（そりゃ、小学生だもんな）」

哀「お陰で私も寝不足だわ」

コナンは、「オメーはいつも寝不足だろうが。万年夜行性のあくび娘がなに言ってるんだよ」と心の中で呟いてみせる。

理由はこれだ。

哀「何、江戸川くん？何か言った？」

哀が厳しい目線でコナンを睨む。

これがあるから、声には出さない。

……いや、実際は声に出さなくてもバレることが多い。

だから、保険の為に声を出さない方が身のためだ。

例え顔に出ていたとしても、回りに人がいれば「何も言ってねえよ」というセリフに証人がいるのだから……。

光彦「灰原さんも見たんですか？！」

元太「そうだよな……」

歩美「博士、優しいもんね……」

そんな会話が帝丹小学校で繰り広げられていた頃、蘭が通う帝丹高校では、あくびが数多く見られた。

粗方、ワールドカップ観戦による寝不足がほとんどだ。

先生「授業始めるぞ」

そういう先生も、明らかに眠気を堪えて授業を行っている。

その為か、途中で授業を切り上げ、ワールドカップ談義が行われた。

が、その会話が何故かつまらない……。その訳は容易に想像できた。そう、帝丹高校一のサッカーオタク、工藤新一がいないからである。

その会話が出た瞬間、帝丹小学校で授業を受けていた江戸川コナンは大きくしゃみをしたという（笑）

日本の闘いはまだ始まったばかり。応援もまだ気を抜くことは許されない……。

1. カメローン編（後書き）

あこ..はじめまして、あこです♪

コナン..オメー、サッカーの知識もないのによく「ワールドカップ」をネタに書こうなんて思ったな。

あこ..だって、ワールドカップと言えば、コナンじゃん。あんた、原作とアニメでフランス大会の時の様子描かれてんだよ。

コナン..何年前だよ！

あこ..え?! 12年前...?

コナン..てか、日韓共催ネタ必要か？

あこ..でも、あたし実際に鶴折ったし……

コナン..鶴が折れないってオレはどっかの検事さんか？

あこ..はい、じゃまた次のオランダ戦で会いましょう！

コナン..まだ、話終わって……

2. オランダ編

先日のカメルーン戦を勝利で納め、迎えた第2戦。

今回は優勝候補とも謳われるオランダとの対決ということもあって、コナンの観戦ボルテージは、否応なしに上がっていた。

また、今回は放送時間をとってみても、蘭に咎められる心配はない。つまり、安心して日本代表を応援出来るのだ（笑）
幸い、小五郎は仕事の依頼で外出中である。

コナン「オランダかあ。ま、今の日本代表なら、オランダなんか敵じゃないけどな♪」

先日の勝利がきいているのか、自分が戦うわけでもないのに、やけに自信満々なコナンを見て、「コナンくん、ホント新一にそっくりね……」と思う蘭。

蘭にそんなことを思われてるとは知らないコナン（新一）は、時折サッカー蘊蓄を語りつつ、キックオフの時間を待っていた。

蘭「えっと、前の試合で勝ったから、この試合に勝つと決勝トーナメントに行けるんだよね？」

コナン「うん！前のカメルーン戦で勝ち点3取ってるから、今日オランダに勝つと決勝トーナメント進出が決まるんだ。引き分けに終わっても勝ち点が貰えるから、決勝トーナメント進出の可能性が増えるんだけどね」

蘭「じゃ、負けた場合はどうなるの？」

蘭のこのセリフが気に障ったのか、不機嫌になるコナン（笑）

コナン「蘭姉ちゃん、日本が負けるわけないじゃん！」

あくまでも、日本の勝利を信じている……というより、確信しているようである。

一体その自信はどこから出てるの？と問いただしたいと思った蘭だ

が、こういうことに理屈なんてないと知っている蘭は、敢えて聞かなかった。

迎えたキックオフの時間。

夕食の片付けも一段落したこともあり、蘭もテレビの前に座っていた。

両国の激しい攻防が続く。

その間コナンは前回のカメルーン戦同様、南アフリカにいる選手に聞こえるわけでもないのに、近所迷惑も省みず、大声で応援していた（笑）

ポアロにいたマスターやウエイトレスの梓は、「何事だ?!」と本気で心配したらしい。

が、それがコナンの日本代表を応援している声だと分かると、顔を見合わせ笑ったという。

0対0で前半が終了し、コナンに「もしかしたら決勝トーナメントに行けるかも」という期待が膨らみ始める。

前半終了時点で、互角の対決をしているのだから、実際そう感じるのが当たり前なのかもしれない。

そして、大切な後半戦が始まった。

蘭は、用事の為自室に戻り、リビングにはコナンだけが残されている。

後半8分、コナンにとって「悪夢」ともいえる瞬間が訪れた。

なんと、オランダに1点を入れられてしまったのだ！

コナン「あああああ……！」

この大声を聞いた蘭は、何かとリビングに飛び出してきた。

蘭「コ、コナンくん、どうしたの？急にそんな大声出したらびっくりするじゃない」

コナン「今、それどころじゃねえんだ！話しかけんな、蘭！！」

日本代表の一大事に素の工藤新一が出ているコナン（笑）

思わず「ごめん……」と謝る蘭。

蘭「“蘭”？コナンくん、今“蘭”って呼び捨てにした？」

コナン「へっ？！（そいや、なんか言ったような……ヤベ、覚えてないぜ）」

蘭「あなた、まさか……」

この先に続くセリフを想像し、青くなるコナン（笑）

蘭「点入れられて、咄嗟のことで記憶にないとか言わないでしょうね？」

ズルッ！

コナンがずっこける。

蘭から「新一じゃないでしょうね」の一言を言われるのではないかという恐怖からくる拍子抜けと、実際に心情を当てられたという驚きからこけたのだった。

コナン「ごめんなさい、蘭姉ちゃん。蘭姉ちゃんの言う通り覚えてないんだ……」

蘭「そう？もう年上の人呼び捨てにしちゃダメよ」

そう優しく諭し、自室に戻る蘭。

「あまりツッコまれなかったな」と思ったコナンだが、実際はいつになく不機嫌なコナンに気がつかってである。

「そんなことよりも……」といつもなら気を揉む問題にも関わらず試合の観戦を続ける。

コナンの必死の応援もむなしく、0対1で負けてしまった。

コナン「くっそおおお！！！！！！」

やはり、大声で悔しがるコナン。

日本の勝利を確信していたコナンにとって、「まさか」の展開だったらしい。

ちょうどその頃、依頼から帰ってきた小五郎がその声を聞きつけ、

「何事か」とリビングに飛び込んでくる。

が、その声の意味をテレビから流れてくる声で悟り、「うつせえ！」と怒鳴る小五郎。

が、日本が負けたショックからなのか、全くコナンの耳には届いていない。

コナン「負けた……」

小五郎「おい、コナン。お前、前に言ってたろ。「勝った者がなんとか」って。だから、そのなんだ？」

コナン「“強い者が勝つんじゃない。勝った者が強いのだ”でしょ？」

小五郎「それだっ！だからそんな気にすることねえだろ？」

コナン「気にするよ、おじさん」

小五郎「あーもう、今日負けたからって可能性が途絶えたわけじゃねえだろ！お前が落ち込んでどうすんだよ！」

実はこのセリフ、8年前、小五郎が新一に言ったセリフと同じである。

そのセリフに「ハッ！」となったコナンはわずかながら元気を取り戻す……。

そう、今日負けたからといって、全てが終わったわけじゃない。もう1戦残っているのだ。次こそ、本当の真剣勝負である。

2. オランダ編（後書き）

あこ..はい！2戦目です！

コナン..前回、話の途中で逃げただろ？

あこ..ああ、そいや最後に「どこかの検事さん」とか言ってたっけ？

コナン..あれ、解説してやった方がいいんじゃないか？

あこ..わかった。『逆転裁判』ってゲームの主人公のライバルで、『逆転検事』ってゲームの主人公・御剣怜侍のことです。彼の名言に、「鶴ならば5ミリの狂いもなく折りあげてみせる」ってのがあってね。

コナン..それを引用したってわけか。

あこ..ほら、『ベイカー街の亡霊』で光彦とかがあんたも指先不器用って言ってたから（笑）

コナン..それにしても、また日韓大会出したな（笑）

あこ..だって、その次どこでやったか覚えてないんだもん！

コナン..そんな知識で小説書くなよ...（ちなみに、2006年はドイツだけだな）。で、なんで日韓ばっかネタにすんだ？

あこ..だって、地元（正確にはちょっとだけ違うんだけど）がイングラント代表のキャンプ地だったんだもん！

コナン..それだけか？

あこ..あと、鶴折ったし♪

コナン..もういいよ。では、また次回会いましょう！

3. 決戦前夜

蘭「コナンくん、いくらなんでも今日は寝なさいよ」

ワールドカップ予選の最終戦を前にして、「何としても応援してやる!」と意気込んでいたコナンに告げる。

コナン「えええええ!!!!!!」

蘭「『えええええ!!!!!!』じゃないわよ! 試合何時からだと思ってるの?!」

コナン「えっと……3時?」

流石に子どもが起きている時間ではないことはコナンにも分かっている。しかし、コナン(新一)のサッカーファンとしてのプライドが許さないのだ(笑)

例え試合開始の時間が真夜中だろうが、試合終了の時間が明け方だろうがコナンには関係ない。

むしろ、元の姿である高校生探偵の工藤新一であってもそれは同じことである。

例え自らの睡眠時間を削ってでも、この一世一代(笑)の大勝負を観戦することだろう。

コナン「蘭姉ちゃん! 今から寝るから試合見せてよ!」

コナンがなんとか試合を見ようと蘭に交渉を仕掛ける。

確かに今(午後8時)から寝れば試合開始までに十分な睡眠時間を確保できる。しかし、心配なのは試合終了後である。

どう考えても登校するまでに2時間はある。その2時間でコナンが寝てしまわないかを蘭は心配していたのだった。

また、あらゆる意味で『新一そっくり』なコナンのことである。普段なら兎も角、寝不足時の寝起きは正直1度寝たら起きない蘭より

も性質が悪いのだ。

最も、寝起きの悪さはコナンになって改善されつつあるのだが、勝敗によって日本代表の運命が左右されるのだから蘭は気が気でないのだ。

コナン「蘭姉ちゃん、ね、いいでしょ？（何だよ蘭のヤツ、深刻そうな顔して…）」

コナンは、蘭が自らの寝起きについて考えていたとは知る由もない（笑）

結局、コナンの必死の訴えも虚しく、最後まで蘭は首を縦には振らなかった。

その為コナンは、例え完徹になろうが、それがバレて蘭に怒られようが、試合を観戦する羽目になるのであった（笑）

決勝トーナメント出場という運命を掛けた日本代表と共に、ある種自らの睡眠時間と命を掛けたコナンの勝負まであと数時間である。

3. 決戦前夜（後書き）

コナン…えっと、試合は？

あこ…次書くよ！！なんか、話数稼ぎに書きたくなって……

コナン…ま、いいけどよ、オレが寝起き悪いってどういうことだ？！

あこ…いやー、特別意味はないよ。事件が絡んでたらそうでもないんだろうけど、余計な時に寝起き悪そうって設定があれば面白いかなって…

コナン…酷っ！（面白い云々で人の性格を決めるなよ）

あこ…あ！『ベイカー街の亡霊』見るからまた後でね！

コナン…あつ、ちょっと待てよ！（何でいまさら何だ？）

あこ…（遠くから）じゃ、コナンあとよろしく♪

コナン…ったく…。それじゃ、またお付き合いください！

補足

2010年7月18日21時からキッズステーションで放送されてるんですよ♪

4. デンマーク編 前編

コナンの命がけの試合観戦が始まった。

現在の時刻はすでに午前3時を回っている。

ちなみに今コナンがいる場所は、3階の居間ではなく2階の探偵事務所である。

ここなら多少の声は聞こえない。それに1度寝たらなかなか起きない蘭のことである。

蘭が起床する午前6時頃まで時間を心配する必要はそれほどない。

小五郎についてもそれほど心配は無用である。一応は安心して試合観戦出来るということになる。

ちなみに携帯のワンセグで見ないのは、自分の携帯がワンセグに対応していないからである。

コナン「（小声で）よっしゃー！蘭も寝てるし、おっちゃんも大丈夫だろう。試合♪試合♪」

まったくのんきなもんである。余談ではあるが、あれから一応睡眠は取り体調は万全だ。

しかし、試合が始まるとコナンの眼は真剣そのもの。

「一分一秒たりとも試合を見逃すまい！」という信念が見て取れる。それは、探偵として犯人を逃してなるものかという時の表情と全く同じであった（笑）

試合が始まってわずか17分後、スタジアムの日本スタンド、そして試合を観戦しているサポーターが総立ちになった！

そう、日本の選手がこの試合初のゴールを決めたのだ。

無論、テレビから流れるサポーターは大歓声。パブリックビューイングでも大歓声が聞かれたと、その瞬間、店の前を通った通行人が

証言した。

コナンも大歓声！！…と行きたいのだから、あくまで今は深夜。しかも、蘭に隠れて見ているというわけで、何とか声を抑えて喜びの声を上げる。

コナン「やっぱ、さすが日本だよな♪」

この今の気持ちを誰かに伝えたいと思うのだが、試合優先。むしろ、試合が終わってからのの方が都合がいい。…いろんな意味で。

コナンがそんなことを考えながら「真剣に」試合観戦をしていると、また日本人サポーターの大歓声がテレビから流れてくる！

そう、日本が2得点目のゴールを決めたのだ。これで「2…0」と俄然有利となった状況で、前半が終了する。

有利ではあるが、そこで気を抜くと待っているのは「敗北」の二文字である。

「あきらめたらそこで終わりが来る」こんな言葉もあるくらいだ。デンマークも絶対に最後まで「可能性」を信じてあきらめないだろう。

そんな思いが後半45分で激突する！

4. デンマーク編 前編（後書き）

あこ..どうもお久しぶりです！

コナン..随分御無沙汰だったな（笑）

あこ..ごめんなさい。どうも執筆が進まなくて……

コナン..それはいいけど（?）、また延ばすのか？

あこ..前にも言ったけど、話数稼ぎたくて……。ほら、本編長かったら読みにくいし、話数多い方が投稿楽しみでしょ？

コナン..（いや、もう何ヶ月も前の出来事を今更小説にしても面白くないと思うけど…）

あこ..でさ、コナン。これ、状況説明にしかなくてくない？

コナン..しゃーねーだろ、オレは試合観戦に夢中なんだから（笑）

あこ..それもそっか！

コナン..次回もお付き合い

あこ..よろしくお願いします！

5. デンマーク編 後編

試合の勝敗を決する運命の後半戦が始まった。

この試合のハーフタイムの間、水道の使用量が増加したと後に水道局の職員が証言した。

勿論コナンも、この間にトイレを済ませている（笑）

探偵事務所にあるトイレを使用したのだが、蘭も小五郎も起きてくる気配はまるでない。

この様子だとおそらく試合が終了するまで大丈夫だろう。

コナン「ここからが勝負だな！何が何でも負けるわけにいかねえよ！」

勝負も負けるも関係ないが、彼の中に疼くサッカー熱がヒートアップしているのだ。

彼のサッカー熱を下げることは誰にも出来ないだろう……。例外があるとするなら、彼の好きな選手にヘンなケチがついた時だろう…。

「あゝ、あともうちょつとなんだけどなあ…」や「はあ、はあ。

ビックリしたぜ（汗）」と“なるべく”大声を出さないようにテレビに向かって毒づくコナン（笑）

そんな『一進一退』という言葉が似合う試合に大きな動きがあった。後半戦が始まって36分が経過したその時、日本サポーターが大きな悲鳴を上げた！

デンマークに1点を返されたようである。その瞬間、コナンは「わああ！（汗）ああああ」と一瞬大声で悲鳴を上げ、すぐ己の状況を考えて出したのか、小さな声に変えてリアクションをとる。

コナン「そんなんっ！いや、まだだ！まだ試合は終わってない！」

そんなコナンの祈りが通じたのか、はたまたこの試合を見守る日本サポーターの応援が届いたのか、それとも神のいたずらか、最後まで

で「攻め」の試合に徹する選手の攻撃が効いたのかは知らないが後半42分に、日本がこの勝敗を決するといっているゴールを決めた。この瞬間コナンは、「蘭に隠れて見ている」という己の状況をすっかり忘れ、「よっしゃー！ー！！！」と大声を上げる。

が、蘭たちが探偵事務所に降りてくる気配はまるで感じられない。むしろ、コナンにとってはそっちの方が「好都合」のようである。誰かに邪魔された日には、関わりたくないくらい機嫌が悪くなる。年々ひどくなっているという新一の悪い性格のひとつである。

やがて、日本人が（：いや『日本サポーター』が（笑））待ちわびた瞬間が訪れる。

南アフリカの地に鳴り響く試合終了を告げるホイッスル……。

その瞬間、この試合を観戦していた全日本サポーターが歓喜の声を上げたという……。

無論、コナン（新一）も例外ではない（笑）

この大声が引き金となったのか、何らかの偶然が重なったのかは知らないが、蘭が目を覚ました。

階下から聞こえる子どもの声に「何か大きなことが起きた」と感じ取った蘭は、探偵事務所に降りてきてしまった。

コンコン

蘭「コナンくん？ いるの？？」

コナン「（げっ！ 蘭？！ どーしよ。マジヤバイ）」

蘭「コナンくん、いるんでしょ？ 開けなさい！」

コナン「（絶対隠れて見たこと怒るんだろうな……。でも開けないと後が怖いし……。なんたってあの蘭だからな）」

そんな思いから渋々（笑）扉を開けるコナン。蘭の痛い一発を覚悟しながら扉を開けたのだった。

蘭「コナンくん、やっぱりここで見てたのね」

コナン「ごめんなさい、蘭姉ちゃん。僕、どうしても試合見たくて

…」

蘭「まったく、子どもがこんな時間に起きてちゃだめじゃないの」

コナン「（オレは高校生だっの！）でも……」

蘭「『でも』じゃないでしょ。もー。それで試合はどんなの？」

コナン「へっ?! あ、試合ならさっき終わって勝ったよ、日本……」

蘭「そう! よかったわね、コナンくん♪ いつも「事件、事件」って
言ってるアイツも喜んでるわね、きつと……」

蘭が言った「アイツ」とは御存知『工藤新一』のことである。勿論、
その『工藤新一』が試合を観戦して、日本が勝利した今、大喜びで
あることは皆さん御存知のとおりである。

蘭が「きつと」と言った瞬間、安堵の表情を浮かべたのは、コナン
も感じ取ることができた。

普段「事件で忙しい新一」が、事件以外で集中できるものがあり、
それで喜びを感じ取ることが出来たのだから、彼の身を案じる蘭か
らすれば「一安心」といったところだろう。

コナンの喜びと蘭の安堵、そして日本の勝利を祝福するかのよう
に陽が昇る。

この夜明けの空は、どんな空よりも綺麗だと2人は思った。

5. デンマーク編 後編（後書き）

あこ…よし、今回はここまで！

コナン…次はどうするんだ？？

あこ…えーと、帝丹小学校でのサッカー談話でもと考えてます！

コナン…無理するな！お前、サッカー知らないだろ？

あこ…大丈夫！知識ないのに書いてるし、小1が話す知識なんてし
れてるから！

コナン…気になったんだけど、「日本人」を「日本サポーター」に
直したのはなんでだ？

あこ…だって、日本人が全員サッカー見てたわけじゃないし（現に
あたしは寝てた！）

コナン…（酷っ！てか、こりゃあこのヤツ寝てたな…）でさ、前の
話に書いてた「あきらめたら…」って何だ？

あこ…ああ「あきらめたらそこで終わりが来る」ってセリフね！あ
れは「endless SHOCK」って舞台で出てきたセリフで、
あたしが好きなセリフのひとつなんだ。ちなみに「endless
SHOCK」っていうのは、堂本光一さん主演で、帝劇で上演さ
れてるものすごい舞台なの♪テーマが「Show must go
on（何があってもショーは続けなければならない）」っていっ
てね、そのためにすごい事件が起きるのよ！

コナン…次回もお楽しみに……

あこ…その為に、光一さん演じr……

ツーツーツーツーツ……

6. 睡眠不足と勝利の朝

日本サポーターにとって長かった夜が明けた。

現在の時刻は午前7時。世間的に言えば1日が始まる時間である。無論、コナンにとってもそうなのだが、明らかに様子がおかしい。さっきからあくびを連発し、心なしか目も少し赤い。

原因は、無論「徹夜でワールドカップを観戦していた」ということしかあり得ないのだが……。

が、いくら何でも「寝不足」を理由に学校を休むことは許されない。そう、蘭との約束を破り、夜中の間ずっと試合観戦を行っていたのだから、仮に学校が許しても蘭が許してくれるはずがないのだ。

何とか蘭に叱られることだけは避けられたのだから、休もうものなら蘭に痛い一発を喰らわされることは、新一時代に承知済みである。

コナン…ふわあああ〜（眠^{ねみ}いい）

小五郎…おう、コナン。お前が寝不足なんて珍しいな

蘭…そうでしょ！！ったく、何やってたんだか……

小五郎…さてはお前、夜更かししてやがったな！

コナン…ははは（汗）

蘭もコナンの寝不足の原因は知っているのだが、日本の勝利を知りコナンを少々かばう気になったらしい。夜更かししていた理由（＝ワールドカップ観戦）については伏せて、小五郎の言葉に同調する。蘭…コナンくん！早くご飯食べないと遅刻するわよ

コナン…うん……

午後9時には就寝し、午前2時に起床したとなれば明らか睡眠が足りていないのか、眠そうなコナン。何とか蘭が作った朝食を食べ終え、ランドセルを取りに自室へ戻る。

コナン…いつてきまーす！

蘭…コナンくん、ちよっと待って！…それじゃ、いつてきます
小五郎…おう！頑張ってこいよ！！

照りつける日差しがコナンに刺さる。寝不足なコナンにとってはこの日差しが恨めしいくらいである。

コナン…眩しいなあ…

蘭…夜更かしするからよ。自業自得ね、コナンくん

コナン…ごめんなさい

園子…らーん！ガキンチョ、おはよ！

蘭…あ、園子！おはよう♪

コナン…おはよ、園子姉ちゃん（全く朝からうるさい女だぜ）

園子…何？ガキンチョ、寝不足？さては、あんたワールドカップ見てたでしょ

蘭…そうなのよ！しかも私たちに隠れてこっそり見てたのよ？！

園子…ハハ、ガキンチョらしいわね。でも、あんたの旦那も今頃寝不足かもよ？

蘭…旦那じゃないわよ！新一なんかっ！！

園子…誰も「新一くん」だなんて言っていないわよ！

蘭…新一なんて言っていないって！

園子…言ってたじゃない！！

蘭…もー園子ったら…

コナン…（アホらし…）

園子…あーあ、新一くんいないからサッカー部の連中話し相手に困るんだらうなー

蘭…いいわよ、別に

園子…まあね！聞いてたってわけ分からない話しかしてないし…
コナン…（わけ分からない話で悪かったな！でも、園子の言うとお
りサッカー部の会沢や中道と話せないのはちよっと辛いな…）じ

や、ぼくこっちだから！

蘭…気をつけてね！

園子…勉強頑張ってこいよ、少年！

コナン…いつてきまーす！（お前（園子）に言われたかねえよ）

蘭たちと別れ、教室まで辿り着いたコナンはすぐに机に臥してしま
った。

コナン…（取り敢えず授業まで寝るか）

すぐにでも眠りに就こうとしたコナンだったが、無論それが許され
るはずもない……。

原因はただ一つ！元太・光彦・歩美、いつも一緒にいるメンバーで
ある。

元太…コナン、起きろよ！学校だぞ？

光彦…寝不足ですか？

歩美…昨日、眠れなかったの？

コナン…ああ、おはよ……。悪いけど、寝かせてくれるか？あんま
寝てないんだ……

歩美…大丈夫？コナンくん

元太…寝ないと大きくなれないぞ！

光彦…そんなので授業どうするんですか？

そんな会話が繰り返されている間に哀が割り込んでくる。

哀…どうせ大方、寝ずにワールドカップ観戦でもしてたんでしょ、

江戸川くん？

コナン…灰原？

歩美…哀ちゃん、おはよう！！

哀…おはよう、吉田さん、円谷くん、小嶋くん

光彦…おはようございます！

元太…よう！元氣そうだな、灰原

哀…ええ、なんとかね

歩美…でも、ワールドカップで寝不足なんて…

元太…コナンらしいというか…

光彦…でも、眠そうなコナンくんを見た時点で気付くべきでしたね
…

哀…（普通それしか考えられないでしょ、この『工藤新一』が寝不足なんだから）

コナン…悪かったな！

元太…でも、ずるいぞコナン！自分だけ見るなんて

光彦…仕方ないですよ、元太くん。試合は深夜、いくら元太くんでも起きてられませんよ…

歩美…歩美も試合見たかったんだけど、お母さんが「遅いからダメ！」って言うて見せてくれなかったんだ

哀…それにしても蘭さんよく許可してくれたわね

光彦…どんな手使ったんですか？

コナン…：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

歩美…なんで黙るの？！

元太…どうしたんだよコナン！

光彦…まさか、コナンくん…

哀…なるほど、蘭さんに隠れて見たってわけね？そして、それがバレた。そういうことでしょ？

コナン…：：：：：：：：：：。だから寝不足のまま来てんだよ、学校にな
哀…でも、その様子だと叱られるより辛いでしょうね。仮に睡眠を
とったとしても、起床してから6時間くらいは経っているはずよ。

いくら推理とサッカーで頭が出来ているあなたでも、その様子では
あまり寝ていないんじゃない？

コナン…（小声）夜行性のお前に言われたかねえよ

歩美…何かいった？よく聞こえなかったんだけど

コナン…何も言っていないよ

元太…何か言ったように聞こえたぜ？

コナン…何も言ってねえよ！

コナンの小声の呟きが聞こえたのか、ジト目でコナンを見つめる哀。

元太…でもさ、朝ニュースで見たけどカッコよかったよなあ！

光彦…ええ！特に岡崎選手が3点目を入れた時は感動しましたよ！

歩美…ホント、みんなカッコよかった！

哀…でも、ワールドカップ前はあるに代表監督を非難してたのに、みんな手のひら返しね

元太試合の話が始めたことで、哀の意識もそちらに移り、何とか何を逃れるコナン（笑）

コナン…世間の反応なんてそんなもんだ。勝ってたら監督の手腕を褒めまくるが、負けてたら手のひらを返したように監督を非難する。試合でも、ミスした選手を責めるのが世間なんだよ。

光彦…舞台が世界規模って大変なんですね

歩美…でも酷いよ！ミスなんて誰にでもあるのに

哀…それが世間というものよ

元太…有名になるって大変なんだな…

哀…そうね。有名になればヘンな期待背負わされるし、姿を消せば

「死んだ」と噂されるし（ニヤ）

コナン…それ、オレのこと言ってるのかよ…

哀…あら？自覚あるのね、平成のホームズさん？

コナン…誰のせいだと思ってるんだよ？

哀…それは、彼らのせいでしょ？

コナン…本はと言えばお前が変な薬作ったせいだろ？

哀…それなら前にも言ったけど、私、毒なんて作ってるつもりなかったわよ？

いつの間にか、シリアスな会話をしている2人。

その間いつもの3人は、サッカー談議で盛り上がっている。普段と変わらぬ日常風景であった。

やがて、担任の小林先生が教室へやってくると、騒がしかった教室に若干の静寂が生まれる。

その静寂に引き込まれるかのように、心地よい眠りにつき始めるコナン。

そんなコナンを隣の席の哀や周りのみんなにたたき起こす状態が幾度となく繰り返された。

その為コナンは「いっそ、自分に麻酔銃を撃ち込んでやろうか……」と考えたくらいである。

象でも30分は寝ている麻酔銃である。撃ち込んでしまえば、ちょっとやそつとのことでは起きることは出来ない。それは、麻酔銃を扱うコナン自身がよく理解している。

が、隣に座る哀の監視が厳しく簡単に麻酔銃は使えそうにない。哀の厳しい目と睡眠不足の体で授業を受けるのはかなり厳しい。

給食もそこそこに、昼休みにはぐっすりと夢の中へと旅立っていた。

6. 睡眠不足の勝利の朝（後書き）

あこ..どうも！

コナン..いくらなんでもこんな感じにはならねえよ!!

あこ..予定してたサッカー談議出来なかったなあ...。でも、初めて選手の名前使ったし、まあいいか♪

コナン..で、この知識は...

あこ..勿論、Wikipedia♪ちなみに、天気は調べたよ（
ーハ＊）♪

コナン..「晴れ」なのは本当なんだな（笑）

あこ..そこ嘘ついても仕方ないしね

コナン..次は？どうなるんだ？？

あこ..帰ってからかなあ...。ほら、中途半端に終わってるし（笑）

コナン..じゃ、試合は？

あこ..もうちょつと先だね♪

コナン..あそ

あこ..コナン、冷たいなあ。ま、気持ちわかるけどさ...。それじ

や、
また今度お♪

7. 完徹のツケ

昼休みしつかりと眠ったコナンだが、20〜30分程度の睡眠では眠り足りないのか、あくびを繰り返していた。

幸い小学1年生ということもあり、今日の授業は4時間目で終わりである。掃除と終わりの会も終わり、漸く帰路につく一向。

元太…コナン、ホントに大丈夫かよ…:

歩美…もう夜更かししないでね

光彦…歩美ちゃんの言うとおりですよ、コナンくん

哀…これに懲りて完徹はやめることね

光彦以下は言いたい放題である（笑）

哀に至っては、実年齢がコナン（新一）よりも上である為、言い方が少々ひどい。

そうは言っても、これがいつもの江戸川コナン（工藤新一）に対する哀の付き合い方である。

最初はこの2人の会話に呆気にとられていた少年探偵団であったが、なんだかんだいって付き合いも長くなり、「またやってるよ」などとすっかり慣れられている。

とはいっても、やはり時折2人が話す深刻そうな（実際深刻な）会話を聞いていると、小学生らしからぬ何かを感じ、自分たちとは違う何かを感じ取るのである。

当の言われない放題のコナンはというと、反論する気力もなくなってきたのか、少々ふらつきながら4人の後について行っている。

コナン…じゃ、オレこっちだから…:

いつもみんなと別れる交差点に差し掛かると、手を振りながら居候

をしている毛利探偵事務所のある方へ歩き出す。

それぞれらしい言い方の「気をつけて」を背に受け、なんとか家まで辿りついたコナン。

いつもならランドセルを置くと、雑誌やら推理小説やらを持ち、探偵事務所の方に降りてくるのだが、今日は睡魔が勝つのか、部屋にランドセルを置くと、部屋にひかれた布団にもぐりこむコナン。

一方の小五郎は、コナンの「ただいま」の声が聞こえたのに、いつまでたっても降りてこないコナンが気になっていた。

確かに朝食の時、眠そうにしていたが、年の割にはしっかりしているコナンのこと。特に気にもかけてはいなかった。

しかし、今日は待てども降りてこない。今更ながらコナンの「夜更かし」が気になった。

あのコナンが夜更かしするほどの出来事で思い当たるのは、ホームズ関係か、サッカー関係。时期的に考えればサッカーが1番妥当である。また、ワイドショーなどで頻繁に取り上げられている今日のトップニュースもサッカーである。しかも、ワールドカップ……。ここまで想像できれば、あとの推理はかなり容易い。

ワールドカップ、寝不足……。この2つからロジックを組み立てるならば、「ワールドカップ観戦のため寝不足」である。コナンの様子からしてもおそらく間違いないだろう。

が、今更叱っても少々遅い。無論、夜更かしを許すわけではないが、タイミングがズレまくってしまっている今、叱るのはまったくもって意味がない。

とりあえず「夕食まで眠らせる」という手段をとることにした小五郎。

蘭も部活を終え、家に帰ってきた。

休憩もそこそこに、料理の出来ない父と居候の少年の為、夕食作りに取り掛かる。

ちなみにコナンの様子は、帰宅してきた際、父から聞いている。事情を理解していた蘭もまた、コナンをそっとしておくという選択肢を選んだらしい。

夕食もあらかた出来上がったため、コナンを起こしに部屋に入る蘭。

蘭…コナンくん、夕飯出来たよ～

が、すっかり眠り込んでいるコナンは、蘭の声に気づかない。

蘭…コナンくんってば、夕飯出来たよ!!

今度はコナンの体をゆすりながら声を掛ける。
体を感じる振動と蘭の声が耳に入ったコナンは、漸く目を覚ます。

コナン…らん姉ちゃん？

蘭…夕飯出来たから起きてらっしゃい…

コナン…うん…

そうは言うものの、体は正直なものでなかなか動いてくれない（笑）
が、事情が事情。何とか体を起こし、リビングに向かう。

かなり眠そうにはしているが、耳は正直なものでテレビでワールドカップ特集が始まると、今までの眠気はなんのその!といった感じでテレビにかじりつくコナンであった。

実際眠たいのは事実であるので、夕食とお風呂を済ませると早々に眠りにつくのであった。

翌朝、その「ツケ」が待っているとも知らずに……。

7. 完徹のツケ（後書き）

あこ…ホッ、何とかコナンの長い1日が終わったよ！

コナン…オレこんなじゃないのに…

あこ…そう？ま、これあたしの推測でしかないし♪

コナン…推測でものを書くな！というか「翌朝のツケ」って何だよ？

あこ…蘭とおっちゃんに怒られてもらおうと考えてます

コナン…ゲ、最悪…

あこ…うん、今思いついて、これで少し小説が延びたよ、1話くらい（笑）ちなみに、今考えてる「オデッセイ after」でも似たような話になる予定

コナン…服部に朝食と昼食を抜かれ、蘭に夕食を遅らされたあの話の後かよ…

あこ…でもね、知識が足りなくて書けないんだ…

コナン…んじゃ書かなくていいよ、あこ姉ちゃん♪

あこ…ちよつと怖い…。黒いオーラが背中から。と、とりあえず今回はここまでです！！

コナン…（逃げやがったな）

8. 閑話休題くツケの答え

翌朝――。

いつもはシャキッとしているコナンの様子がおかしい。

明らかに、昨日の寝不足とはまた違う何がコナンを支配していた。ボーッとしており、心なしか顔が赤い……。

コナン…おはよー、蘭姉ちゃん

蘭…あら、コナンくん。おはよう♪よく眠れた？

コナン…うん、なんとかね…

「なんとか」とは答えるものの、明らかに頼りない声。それに心なしか元気がない。

こんな時のコナンの状態は決まっている。というより、それ以外にどう考えても思い当たるものがないのだ。

蘭…コナンくん。顔、赤いわよ？

コナン…え?! そんなことないよ…

蘭…そんなことないわけではないでしょ？

そう言いながら、自分の掌をコナンの額に当てる。子どもということを考慮にいれても蘭が自分の掌から感じたコナンの体温は熱すぎる。

蘭…まさかっ!? ちょっとコナンくん、熱あるんじゃない？

コナン…大丈夫だよ

そう答えるコナンだが、体の不調は起床した時から感じていた。し

かし、自分のことにはかなり鈍感なコナン（新一）のこと。単に「昨日の寝不足がまだ抜けないのだろう……」と、勝手に解釈していた。

また人間とは不思議なもので、他人に自分の体調不良を指摘されると、本当にしんどくなってくる。

無論、コナンも例外ではなかった。

蘭が救急箱から体温計を取り出してくる。

蘭…ほら、コナンくん熱測って！

コナン…うん…

ちょうど部屋から出てきた小五郎は蘭の「熱測って」という声が聞こえたのか、声を掛ける。

小五郎…どうした？またコナンのヤツ熱でも出したのか？

蘭…そうみたいなの？今、熱測ってるんだけど…

小五郎…ったく！コラァァ！！コナン、夜更かしもいい加減にしろよ！！！！

蘭…お父さん！今は、怒るところじゃないって…

コナン…ごめんなさい…

小五郎…ったく…。氣いつけろ！

そんな会話をしている間に体温計の「ピピッ」という音がする。

わきに挟んだ体温計を取り出したコナンは、デジタルで表示された自らの体温を見てげんなりする。

蘭…見せて。38.3℃…、明らかに風邪ね

小五郎…今日1日おとなしくしてるこったな

幸い、今日は土曜日。学校は休みである。

が、いくら休みとはいえ風邪で休みがつぶれるのはかなり辛いものがある。

蘭が作ってくれたお粥を食べると、再び寝室へと戻り、ふとんに潜り込む。

しばらくすると、蘭が氷枕と熱冷ましのシートを持ってきてくれた。頭とおでこから伝わってくる冷たさが熱をもった体には心地いい。

話は変わるが、コナン（新一）はよく熱を出す。が、「風邪をひいて熱を出す」というのとは少し内容が違う。

環境の変化、季節の変化とともに体調を崩すことが多い。無論、風邪についても人並み以上にひくことがある。とはいっても、寝込むのはほとんど1日程度。翌日には回復し、走り回ることがほとんどである。

例外は、風邪をひき、服部平次に中国酒・白乾児バイカルを飲まされ、元の工藤新一の姿に戻った時の、「風邪・酒・発作」のトリプルパンチを喰らって、3日間寝込んだ時くらいなのだが……。

部屋で眠っていると、蘭がお茶を持ってきてくれる。

蘭…コナンくん、起きられる？

コナン…うん……

蘭…お茶飲もつか

麦茶が入ったガラスのコップをコナンに手渡すと、倒れないようにコナンの体を支える。

コナン…ありがとう、蘭姉ちゃん

蘭…何かあったら言ってね

コナン（新一）…うん、大丈夫だよ（悪いな、蘭。オレの責任で心配かけちまって……）

そんな蘭の献身的な看病が効いてきたのか、夕方にはコナンの熱も37・4℃にまで下がっていた。

ここまで下がってくれば食欲も回復してきたのか、蘭の作った夕飯をしっかりと食べている。

体調不良のコナンを気遣って食べやすいものを用意したようである。大事をとって、今日も早めに就寝するコナンであった。

翌朝、コナンの熱は平熱まで下がっていた。が、ぶり返すことを心配した蘭が、外出を禁じた為、せつかくの休日が丸つぶれになったのであった。

これもまた、コナンの自業自得である。

8. 閑話休題くツケの答え(後書き)

あこ..よしっ！

コナン..何が「よしっ！」なんだ？

あこ..「閑話休題」終わり！！

コナン..延びた話ってこれかよ：：

あこ..悪い？あ、あんたがよく熱出すって設定は、知り合いの方も使ってるネタだから(笑)

コナン..その「知り合い」って誰だよ！！

あこ..ままだ、それは誰でもいいじゃん(笑)で、次からワールドカップ本編に戻ります！

コナン..やっとな試合か：：

あこ..で、コナンに二役演じてもらおうかな？って考えたけど、久しぶりに話して喧嘩しても面白くないし、あたしにそんな(サッカーの)知識ないからやめとくね♪

コナン..それでいいよ。それより、終わってから何ヶ月も経ってるんだから早く終わらせな(笑)

9. 決戦の夜

遂に決勝トーナメントの夜を迎えた。

試合開始は夜11時を回るが、これまでのコナンの観戦っぷりを見てきた蘭と小五郎である。いくら止めてもこっそり試合観戦することは目に見えている。

その為、今回ばかりは周新を促すのをやめた。……実際は、自分たちも見たいという理由である。

普段、サッカーに興味のない蘭と小五郎であるが、ワールドカップという世界を舞台としたこの大一番、見届ける気になったようである。

コナン…ホント?! ホントに見てもいいの?

蘭…どうせコナンくん、止めても見るとしょ? だったら一緒に見ようよ。その代り、明日の朝に「眠いから寝かせて」っていうのはなしよ!

コナン…うん♪ありがとう、蘭姉ちゃん♪

小五郎…ただし、夜遅いんだから、あんま騒ぐんじゃねえぞ!! お前の叫び声は近所迷惑なんだからな!!!

コナン…大丈夫だよ、おじさん（オレそんな大声出してたか?）

全くもって自覚のないコナンである。それは、新一時代から変わらない性格である為、すでにどうしようもないところまで来ているのだが（笑）

実際、この自覚のなさ、絶対音感を持ちながら自らの音痴の自覚がないというところにも表れている。

いつものように試合開始を待つコナン。

この時は、この試合が最後の最後まで気の抜けないものになるとは

知る由もない。無論、あんな結末を迎えることでもある。

9. 決戦の夜（後書き）

あこ..ご無沙汰です。1ヶ月以上放置してたんですね

コナン..もういいからいい加減終わらせろよ...

あこ..うん、頑張るよ

コナン..信用ならねえな...。(今年中に終わるのか?)

10. パラグアイ編

決勝トーナメント第1戦……。

遂に、決して負けることが許されない試合が始まった。

南アフリカの地に鳴り響くホイッスルがそれを告げる――。

試合は、いつかと同じく「一進一退」という言葉が似合う試合展開である。

試合開始後、日本チームがシュートするもゴールから大きく外れたり、パラグアイチームのシュートをセーブしたりと、両チームとも息つく暇すらない。

それは、南アフリカの地で応援する両国のサポーター、そして、テレビで我が国のチームを応援しているサポーターも同様である。

当然、東京都米花市米花町5丁目にある毛利探偵事務所でも応援している江戸川コナンこと工藤新一もまた然りである（笑）

今回は、蘭と小五郎も一緒になって応援している。

試合開始22分、日本サポーターから大きなため息が漏れた。松井選手が蹴ったボールがゴールのバーを直撃したのだ――！

コナン……あー、惜しい――！あとちょっとだったのに――！！

蘭……ホント。ドキドキした――

小五郎……まったく、冷や冷やさせんな――！！

三人三様。それぞれ感想を漏らすのであった。

ちなみに、コナンはかなり大きな声で叫んでいる（笑）

が、多少時間は考えている。夜もかなり遅いということ、近所迷惑にならない程度に叫ぼうと心掛けてはいるのだが、近くで聞いて

いる蘭たちにとっては十分うるさいくらいである。

蘭…それにしても、コナンくんってホント新一そっくりね

小五郎…そーいやあの探偵ボウズも今頃はサッカーに夢中なんだろうな

蘭…いくら事件で大変だからって、こんな時くらい帰ってくればいいのに…

小五郎…新一が帰ってきてても、うちには入れねえぞ

蘭…なんで、うちでサッカーになるのよ！！大体新一と一緒に見たらうるさいし、負けたら機嫌悪くなるから一緒に見るのはこっちから遠慮するわよ！

小五郎…何ムキになってんだ？

ちなみに、当のコナン（新一）はと言えば、試合に夢中で2人の会話は「馬の耳に念仏」状態である。

ただ、聞こえていないわけではないので、「だからオレだって」や「悪かったな」など心の中でツツコみをいれていた。

押しつ押されつの試合は、0対0のまま前半の終える。

蘭…すごいね。もう、どっちが勝ってもおかしくないわ

コナン…蘭姉ちゃん、勝つのは日本だよ？！

小五郎…なんでい、まだ試合は終わってねえじゃねーか

コナン…っ…、それはそうだけど…

小五郎…ガキが試合予想なんて100年早いんだよ

蘭…お父さん！言いすぎよ！！そこまで言ったらコナンくん可哀想じゃない

そんな喧嘩と夜食を終え、後半の観戦が始まる。

後半戦は、前半戦をも上回るほどのハラハラドキドキの展開だった。両チームとも中々点を入れられないのだから、もしゴールネットを揺らすことが出来れば優位に働くのである。

選手はその貴重な1点を入れようと必死になってボールを追いかける。

しかし、「点は入れさせまい！」という強い信念をも同時に持ち合わせていた両チームである。その貴重な1点を勝ち取ることはかなり難しいのであった。

その現実を物語るように、後半戦を終えても両チームの得点は0対0であった。

こうなれば延長戦で勝敗を決めるしかない……。

ここまで来れば、両チームの選手もサポーターも己の国の威信にかけても負けるわけにはいかなかった。

コナンは眠気なんて感じていないほどにシャキッと起きている（笑）
おそらく彼の体内ではアドレナリンが大量に放出されているのだろう。

「時間が遅いからもう寝ろ」と蘭か小五郎が一言いおうものなら、相当の反撃がなされるに違いない。

彼の表情には、何者からも声を掛けさせないオーラを醸し出していた。

ちなみに蘭は睡魔に襲われ始めていたものの、試合が気になって寝る気になれない。小五郎も普段はサッカーに興味はなかったが、この試合だけは見逃す気になれなかった。

コナンのオーラも理由のひとつであったが、自分たちだけ見てコナンに見せないのは、今までワールドカップを観戦してきたコナンに失礼というか、可哀想という気持ちになり、もう何も言わないのだった。

絶対に点を取らなければならない延長戦。
が、そんな延長戦を終えても、両チームの得点に変化は見られない
……。

残る決着はP K戦のみである。

そう、このP K戦で勝者が決まるのだ。

1本でも外せば勝利を得ることは出来ない。

かつて新一もP K戦まで持ち込んだことがあった。結果、自らがP Kを外し、チームは敗北した過去を持っている。

両チーム交互にボールを蹴る。

ボールを蹴る選手も、ボールを止める選手も緊張し、一球一球に集中する。

そんな緊張の中で、3本目のシュートの際、日本サポーター側から大きな溜め息が漏れた。

テレビの前のコナンもその瞬間に声にならない声を漏らす。

そして、パラグアイの5本目が無情にもネットを揺らした……。

この瞬間、日本チームの負けが決まったのだ。

無情に響くホイッスル……。遠い場所で鳴り響いたこの音が、コナンの耳を通り過ぎて行った……。

10. パラグアイ編（後書き）

こんにちは、あこです♪

やっと試合編を終えることができました！！

ようやくですよ、ワールドカップ終わって何ヶ月経ったんだか（笑）
今回も、試合データを参照して書いてみました。

コナン呼んでみようとおもったんですが、こんな結果ですし、そっ
としてあげようと思います。

あと、もう少しでワールドカップ小説も完結します。
短い間ですが、もう少しお付き合いください！

11. コナンの異変

パラグアイ戦が終わった翌朝、寝不足ではあったが、蘭はいつものように朝食とお弁当を作っていた。

リビングでつけっぱなしにしてあるテレビからは、昨夜の試合のニュースが取り上げられている。

蘭..またこのニュースか...。いい加減しつこいわねえ)

そうは言っても、本日のトップニュースとして扱われるのは仕方がない。

それほど、ワールドカップというのは世界中で注目されている試合なのだ。

蘭..さてと、コナンくん! 朝よ、起きなさい!!

コナン (正確には小五郎) の寝室のドアをノックしながらコナンに声をかける。

コナン..蘭...姉ちゃん、おはよ...。早いね...

蘭..何言ってるの、コナンくん? もう7時だよ??

コナン..え? あ、ホントだ...。もう7時なんだね。起きなきゃ

蘭..うん...。朝ごはん出来てるから顔洗ってらっしゃい!

コナン..分かった...

そう言って布団から抜け出すコナン。

しかし、明らかに向かうべき方向が間違ってる。

蘭…コナンくん？そっち洗面所じゃないよ？

コナン…え？！あれ？？！あ、間違えちゃった（汗）

蘭……………

コナン…顔洗ってくるね！！

今度はきちんと洗面所に向かうコナン。

コナン…熱っ！！なんで熱湯が出んだよ？！

洗面所から聞こえるコナンの今日日お笑い芸人でもやらないようなボケに思わず、洗面所に走った蘭。

蘭…どうしたの？！

コナン…いや、顔洗おうと思ったら熱湯が…

確かに、蛇口から出続けるお湯からは湯気が見える。

蘭が確認すると、水道のレバーは一番左端にセットされていた。

これじゃ、湯が出るのは当たり前である。

普段からしっかりしてるコナンではあるのだが、この日に限っては様子がおかしい。

以前のデンマーク戦の際は、睡眠不足と熱で様子がおかしかったのだが、今回は、睡眠不足は別と考えてもコナンらしくないミスが連続である。

正確には、コナンは睡眠不足でも、高熱を出していてもしっかりしているのです、このようなミスをすることは極稀な話である。

原因は、もうお気づきであろうが、昨夜の敗戦が原因である。

コナン…はあああ~~~~~

小五郎…何だよ？！朝っぱらから重い溜め息つきやがって

コナン…おじさんは気楽でいいね…

小五郎…何だとおお！！！！いい加減に…

蘭…お父さん！ちょっと待った！！

コナンに拳骨一発食らわせようとした小五郎だったが、蘭の声で拳がとまる。

小五郎…邪魔すんな！！

蘭…だって、コナンくんおかしいんだもん

小五郎…ああ？！それが何だってんだ？

蘭…コナンくん、普段、こんなこと言う子じゃないし、それに、今日のコナンくんらしくないのよ

小五郎…「らしくない」ってどういう意味だよ？！

蘭…コナンくん、普段なら起こさなくても自分で起きてくる子なんだよ？それに、顔洗うとき、熱湯出したのよ？

小五郎…なんでい？ガキのくせにもうボケちまったのか？

そんな失礼な会話が繰り返されているにもかかわらず、コナンは相変わらず「心、此処に在らず」といった状態であった。

日売テレビの朝の情報番組、朝生7を見ながら溜め息をつくコナン。よくよく見てれば、サッカー特集のときによく溜め息がきかれた。

コナン…はあああああ~~~~~（何か気分が乗らないなあ）

小五郎…おい、蘭。こいつ、今日学校休ませた方がいいんじゃないか？

蘭…お父さん！コナンくんとは、昨日の試合を見せる代わりに、学校休ませないって約束してるのよ？休ませられるワケないじゃない！！

小五郎…でも、注意してならないと、コナンのヤツ、絶対交通事故

にでも遭うぞ？

蘭…だからって甘やかせるのはよくないわよ！！

小五郎…それはそうだけだよ…

どっちが親なのか分からない会話を繰り返しているうちに登校時間がやってくる。

蘭…コナンくん！学校行くよ？

コナン…え？！あ、もうそんな時間なんだ…。それじゃ、行っきまーす

蘭…私も、行ってきたま…って！！コナンくん！！！！

コナン…へ？（何だ？また何かやったのか、オレ？）

蘭…ランドセル忘れてるよ？

コナン…あ…。ありがとう、蘭姉ちゃん！（大丈夫か？オレ…。

いや、明らかに大丈夫じゃねーな）

蘭…それじゃ、お父さん。行ってくるね♪

小五郎…気をつけろよ！！

笑顔で2人を送り出す小五郎であったが、一抹の不安をかかえていた…。

11. コナンの異変（後書き）

あこ..どうも♪

快斗..はじめまして、黒羽快斗です。って、名探偵のヤツ、どうしたんだ?!

あこ..それより、快斗の姿でコナンを「名探偵」って呼ばないほうがいいよ

快斗..じゃ、「新一」とでも呼ぼうか?

あこ..やめて、声が混同しそうになるから

快斗..冷たいな♪でも、こんな描写で名探偵怒らないか?

あこ..大丈夫だよ♪あいつショックでこの話はすつとぼしてるはずだから...

快斗..（新一より厳しいな...）

12. コナンの異変2 (前書き)

数ヶ月ぶりの更新です。

まだ何の事情も知らない3人と合流する。

コナン…うん…

どうも朝の挨拶としては張り合いを感じない。

いつもと全く様子が異なるコナンに3人が不安を覚え、蘭に事情をたずねようとする。

歩美…ね、蘭お姉さん。コナンくんどうしたの？

蘭…それがね、今朝からなのよ…。どうも、昨日の試合で日本が負けたことが原因みたいで…

元太…それでコナンのヤツ元気なのか？！

光彦…そういえば気合の入りがみんなと違ってましたからね…
歩美…コナンくん、大丈夫かな…

事情を知るや、3人の脳裏には昨日のコナンの様子が浮かぶ。

3人とも家庭が厳しく夜更かしは許されなかった為、昨夜の試合は観戦していない。

結果を知った今でも、コナンほどの状況には陥っていない。

思考が停止したようなコナンに蘭はかつて大阪で起こった事件を思い出す。

その事件の犯人（IIレイ）は、コナン（新一）が大ファンだったサッカー選手であった。

彼が殺人犯とは信じられず、最後まで彼の無実を信じて証拠探しに走り回ったコナンであったが、どれだけ証拠を探し出しても、無実の証拠どころか、彼が殺人犯である証拠ばかり見つかるのであった。彼の犯行を確信したコナンは、平次の協力を得て、一対一で犯人に推理をぶつけた。

それでも彼は罪から逃れようとするが、コナンの説得により、自ら

幕を引く決意をし、欧州の鉄の砦はフィールドから姿を消したのだ
った。
ヨローロッパ

蘭…（あの時と一緒だ……。今日のコナンくん、あの時と……）

コナン…ん？蘭姉ちゃん、今、何か……言った？

蘭…え？何も言っていないけど、どうしたの？

コナン……（気のせいかな？）なんでもないよ

声をかけても一向に反応のなかったコナンだったが、蘭が心の中で
独り言をつぶやいたその瞬間に反応を示した。

光彦…あの、お取り込み中のところ悪いんですけど、学校遅刻しち
やいますよ？

蘭…え?! やだ、もうこんな時間!!

ふと左腕につけた時計を確認すると、すでに遅刻ギリギリの時間を
示している。

蘭…それじゃ、またね。みんな!!

そう言って走り出す蘭。

光彦…ぼくたちも急ぎましょう!!

元太…おう!

歩美…遅刻なんて出来ないもんね!!

そういう探偵団も走り出す。

ふと、元太が後ろを振り返ると、コナンはとぼとぼと後ろをついて
くる。

元太…おい、コナン! 遅刻するぞ!!

コナン……?（ちこ……く? ちこく?! 遅刻?!?!）お、おうっ

!!

ようやく事態に気づいたのか、走り出すコナン。

急いで走ったおかげで、4人とも遅刻することなく帝丹小にたどり着いたのだった。

12. コナンの異変2（後書き）

すいません!!!!

完全に、更新放置してました。

去年のうちに完結させるはずが、ルミナリエに気をとられ、そのルミナリエも完結させることもなく、2ヶ月近く放置してしまいました。

ルミナリエも、最新話の冒頭だけシナリオが出来ているだけで、メインイベントは一切手がつけられておりません。

放置していた結果、続きをどうするか完全に忘れてしまい、元の話を捏造せざるを得ない状況になってしまいました。

出来る限り早く更新したいと思いますので、よろしくお付き合いください。

2011. 3. 6 あこ

13. 帝丹小にて…

無事、帝丹小にたどり着いた一行ではあったが、全速力で走った為、みんな疲労困憊であった（笑）

哀…あら？みんなして時間ギリギリなんて珍しいわね

みんなより早く学校に到着していた哀が話し掛ける。

光彦…ええ、コナンくんのおかしいことを話していたら思いがけず時間をとってしまつて…

歩美…それでみんなで走つてきたら…

元太…それで、こんな時間になつちまつたんだよ…

3人ともゼーゼー言いながら哀の質問に答えている。

コナン…：：：：。灰原…：、おはよ

一方、コナンは探偵団と同じスピードで走つて来たにも関わらず、そんなに息は乱れていない。

哀…あら、名探偵さんは大丈夫なのかしら？

いつものように話し掛ける哀。

コナン…：：：：？何か言つたか？

哀…どうせ、昨日のサッカーが原因なんでしょ？ホント毎度毎度迷惑のかかる人よね

歩美…ちよつと、哀ちゃん…

光彦…さすがに言い過ぎなんじゃ…：…？
哀…いいのよ。これくらい言っておかないと周りに迷惑が掛かって仕方がないもの

そんな酷い会話が繰り広げられているにも関わらず、コナンは「馬の耳に念仏」の状態で、聞き流してしまっている。

小林先生…はい、みんな席について～！！

1－B担任の小林先生が教室に入ってくる。

日直…きりーつ、きをつけ、礼！ちゃくせーき！！

小林先生…はい、おはようございます

全員…おはようございます

小林先生…1時間目は算数よ。今日は授業の最後に簡単なテストをしますからね

そう語りかけると、みんなから「えー」という声上がる。

勿論、コナンと哀を除いて…：ではあるが（笑）

授業は淡々と進み、後は小テストを残すのみとなった。

なんだかんだいっても、小1のテストである。

彼らにとっては難解でも、そうは難しい問題が出題されるわけがない。

が、コナンはいつもと様子が違っていた。

つぎのたしざんにこたえなさい。

$$7+6 \parallel$$

$$5+9 \parallel$$

$$8+4 \parallel$$

$$6+8 \parallel$$

つぎのひきさんにこたえなさい。

$$15-8 \parallel$$

$$13-9 \parallel$$

$$17-6 \parallel$$

$$11-8 \parallel$$

$$12-5 \parallel$$

中身が高2のコナンにはなんてことない問題である。

が、コナンは簡単な計算式を前に鉛筆が止まってしまっていた。

見かねた哀が、レベルを上げた問題を紙に書いて手渡す。

次の式を展開しなさい。

$$(x+5)(x+6)$$

工藤くん、これくらいならどうかしら？

哀の出した問題に「 $x^2+11x+30$ 」といとも簡単に答える。

どうやら、小テストの問題が単純過ぎるため、返って頭が働かないようであった。

先の問題も中学生レベルの問題ではあるが、コナンにとってはいいリハビリになったようである。

哀のお陰もあり、多少脳が活性化し始めたコナンは、難なく解答し、テスト終了10秒前には答案をしあげること成功した。

その後、どうにか問いかけに対して反応は出始める物の、まだまだ普段のコナンに比べると、鈍いといわざろうを得ない状態であった。

そんなコナンに、ある災難が待ち受けていることは誰も知るよしもないのであった。

13. 帝丹小にて…（後書き）

あこ…どうも！久しぶりに連続更新してみました！

コナン…って、オレの扱い酷くねえか？！

快斗…そうか？お前のこんな感じ見てて面白いと思うけどな、オレは（笑）

コナン…快斗！！何でお前がここにいるんだよ？！

あこ…あ、あたしが呼んだんだ♪

快斗…そゆこと♪

あこ…快斗、コナンの災難って何か知ってる？

快斗…オレの情報によるとアレだろ？（ゴニョゴニョ）

あこ…さすが♪

コナン…あんだよ？！教えろって！！

あこ…それは次回までのお楽しみ♪それより、コナン！あんた蘭にホワイトデーのプレゼント渡すんでしょ？

コナン…（何かごまかされてるような気がしないでもないけど…）
悪いか？！

あこ…でも、お返し何年待たせたの？

コナン…オレだって、すぐに渡したかったけどさ。それは原作者の…

快斗…あー、そういうなら、オレが主人公のマンガ、停滞しっぱなしだから一緒に伝えてくれねえか？

あこ…あと、今度快斗がいつ出てくるかも聞いてきてくれる？

コナン…最後にひとことだけ言わせてもらえるかな？

快斗…何だ？

あこ…何を？

コナン…異議あ…

あこ・快斗…パクるな！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3871m/>

ワールドカップ小説 2010

2011年10月7日10時07分発行